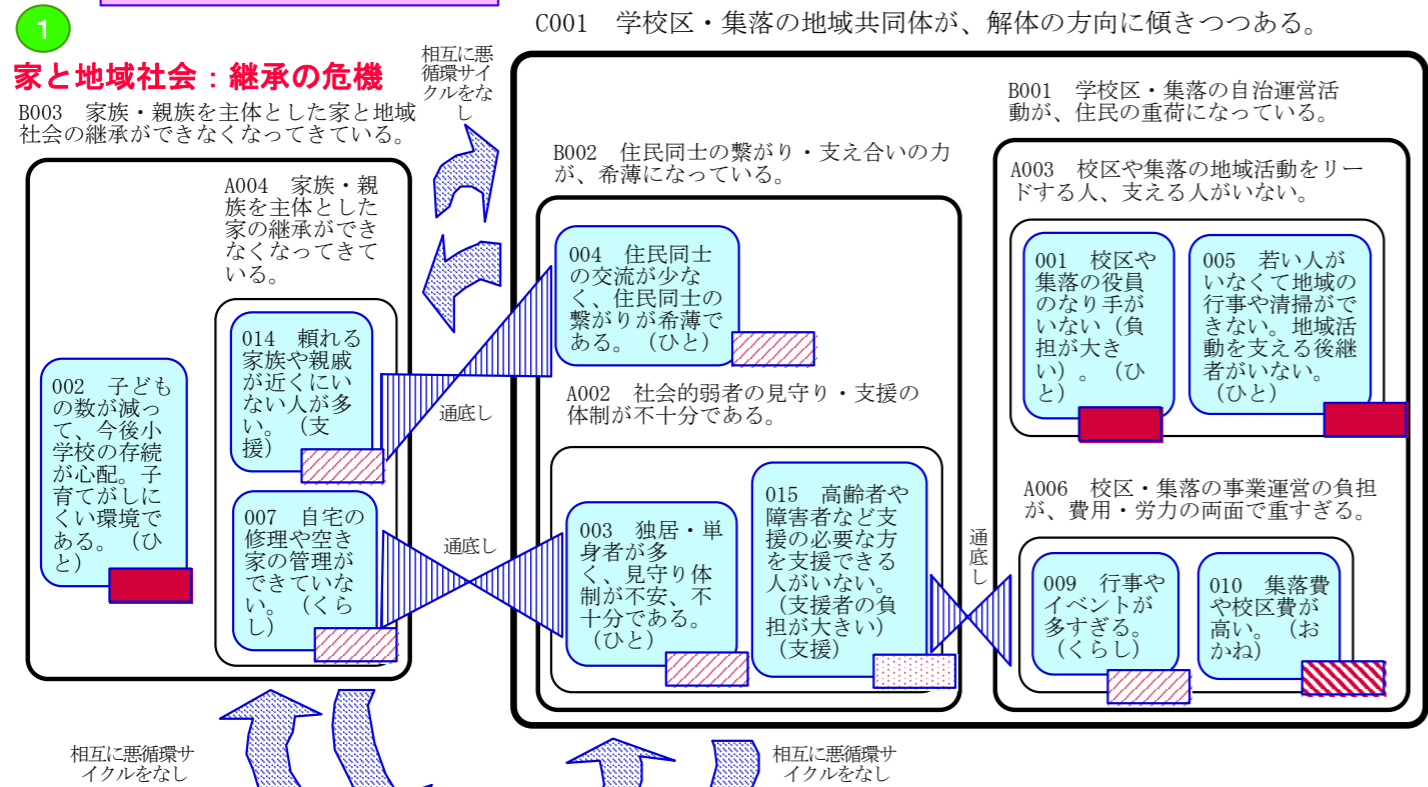
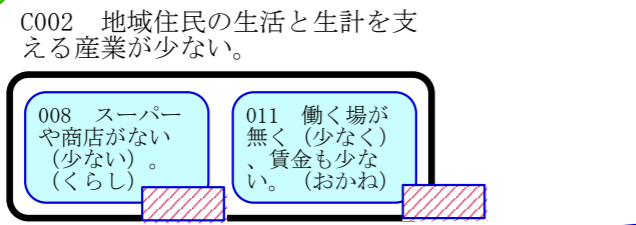


校区で生活するなかで、どのお困りごとがありますか？
「質問1の項目」から浮かび上がる校区の姿

安納校区：全体集計 2 地域共同体：解体の危機



3 生活と生計：消滅の危機

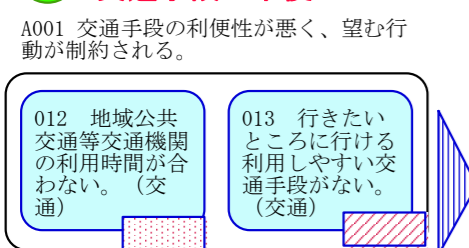


■アンケート集計結果

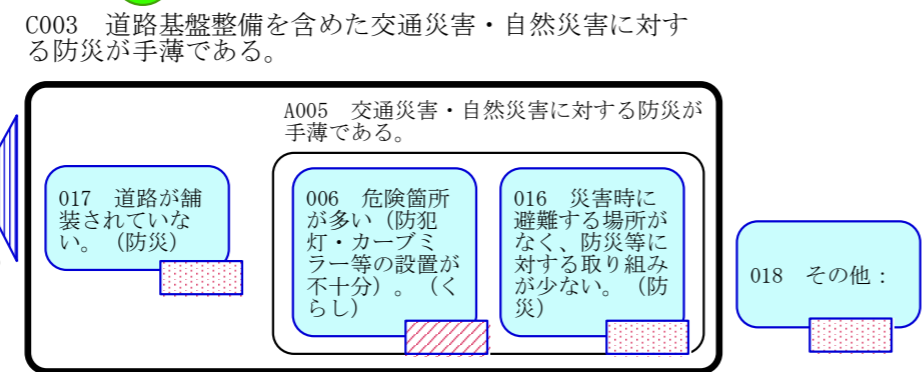
ランク	得点幅	模様
A	154.1~192.5	■
B	115.6~154	▨
C	77.1~115.5	▧
D	38.6~77	▩
E	0.1~38.5	▪

(最高得点：192点)
(回答者数：234人)

4 交通手段：不便



5 防災対応：手薄



(1) 2021年7月7日
(2) 情報工房
(3) 校区アンケート「質問1」の質問17項目
(4) 山浦晴男

注1) 文頭の数字は、質問項目の番号を示す。
注2) 文頭のアルファベットは、階層構造の段階を示す。
注3) 左上の丸数字は、分析結果の解説のストーリーの流れを示す。

安納校区「地域づくりアンケート」回答結果

(2022年アンケート)

【分析結果】

「質問1の項目」(校区での生活の困りごと)から浮かび上がった校区の姿は、次のようである。「家と地域社会」「地域共同体」「生活と生計」の3つの要素が、相互に悪循環サイクルをなしている。

第1の「家と地域社会」は、「継承の危機」にある。家族・親族を主体とした家と地域社会の継承ができなくなっている。

第2の「地域共同体」は、「解体の危機」にある。学校・集落の地域共同体が、解体の方向に傾きつつある。

第3の「生活と生計」は、「消滅の危機」にある。地域住民の生活と生計を支える産業が少ない。これらがよって立つ基盤には、2つの側面がある。

一方は「交通手段」で、「不便」である。交通手段の利便性が悪く、望む行動が制約される。もう一方は「防災対応」で、「手薄」となっている。道路基盤整備を含めた交通災害・自然災害に対する防災が手薄である。

以上のように、現在の困りごとをそのまま放置すると近い将来、校区の地域社会の存続が危ぶまれる状況におかれていることが、浮かび上がった。